



地域子育てネットワークだより

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県県民生活部男女青少年課

E-MAIL : danjoseishounen@pref.hyogo.lg.jp 電話 : (078) 341-7711 (内線 2753)

令和4年8月号



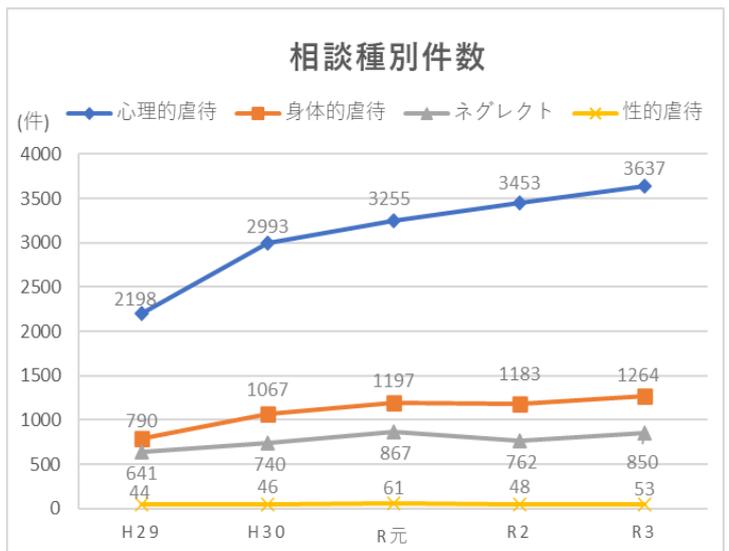
こども家庭センターへの児童虐待件数増加

令和3年度に県こども家庭センター（中央、尼崎、西宮、川西、加東、姫路、豊岡）が受け付けた児童虐待相談件数は **5,804 件** で、前年度から **358 件増加** し、統計を取り始めた平成2年以降で**最多**となりました。

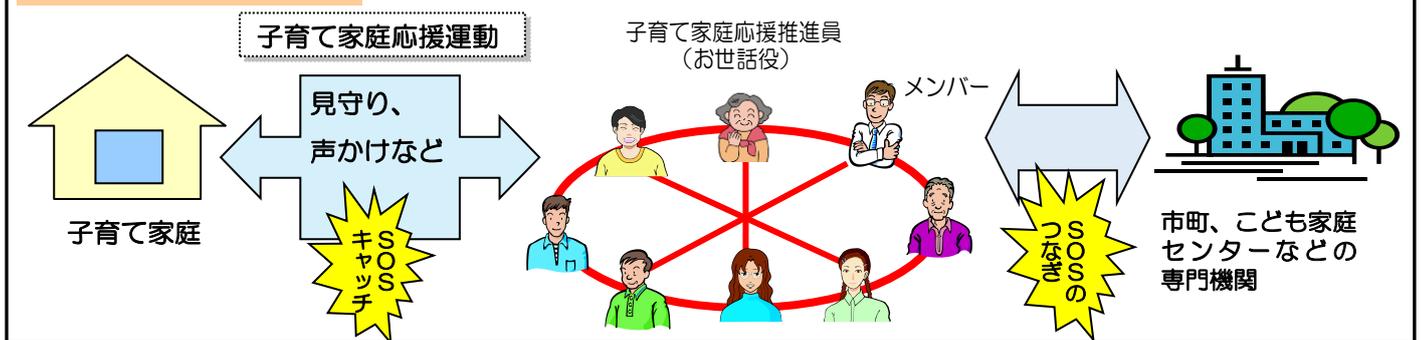
虐待相談の種類としては「**心理的虐待**」が最も多く全体の62.7%、次いで「**身体的虐待**」が続きます。相談経路は**警察等**からの相談が57.8%と最も多く、次いで**近隣・知人**からとなっています。

主な虐待者は全体の45.6%が**実父**、44.5%が**実母**、合わせると全体の**90.1%**にのぼり、また被害を受けているのは、小学生以下の子どもが**4,448件**と全体の76.6%を占めています。

「子育て応援ネット」が取り組む登下校時の見守り、声かけ、SOS キャッチ活動など**地域ぐるみの子育て応援**がますます求められています。



子育て応援ネット事業



あなたのおき「家族写真」募集します！

家族の大切さを見つめ直すきっかけとして「家族の日」をテーマに写真コンクールを開催します。**あなたのカメラやスマホにある、家族のあたたかさ・絆を感じられる写真**をぜひご応募ください。「家族」は、同居家族だけでなく、家族と同じようなつながりを感じる「**人**」「**動物**」「**物**」も含まれます。

兵庫県に在住・在勤・在学している方、e-県民登録者の方からのご応募お待ちしております！ 詳細はHPをご覧ください。

応募締切：9/15

家族の日 写真コンクール



～子育て応援ネットの活動紹介～

姫路市連合婦人会は、姫路市の女性団体の代表としての活動はもとより、それぞれの地域で**子育て支援活動**にも取り組んでいます。コロナ禍での活動制限の中、3年度の活動を紹介します。

中寺校区では、歯磨き指導の為にこども園を訪問し**紙芝居や絵本の読み聞かせ**を行い、絵本、歯ブラシを寄贈しました。さらに地域では子ども会と一緒にクリスマス会を実施しました。

豊富校区では、豊富公民館で**季節のイベントやお誕生日会**などを実施、幼稚園(令和4年度は休園中)・保育所を訪問し絵本の寄贈と読み聞かせ等も行っていきます。また、豊富小中学校8学年を対象に、日赤による短期講習会において**三角巾の使用法の実習**を行いました。



広峰校区では、幼稚園年長組を対象に音楽療法士による音楽遊びを実施しました。

水上校区では、幼稚園年長組を対象に昔遊びやフラワーアレンジメント教室を実施しました。

四郷(見野)校区では、四郷和光保育所に絵本を寄贈し大変喜ばれました。

これからはウィズコロナで、工夫しながら活動の幅を広げ、子どもたちと関わっていききたいと思えます。

姫路市連合婦人会会長 岩田 稔恵



～まちの子育てひろばの活動紹介～

朝来市 「山東子育て学習センター」

まちの子育てひろばアドバイザー派遣事業で、**バルーンアートの講師を紹介**していただきました。コロナ禍で人数制限を設けた実施のため、グループではなく一人で来られ、色々な遊びを教えてくださいました。会場が楽しい雰囲気になるよう、**たくさんのバルーンアートを飾って**くださり、大型絵本の読み聞かせや、手作りされた楽器を持ってダンスをしたり、講師さんの引き出しの多さに驚くばかり！**子ども達をあっという間に引き付け笑顔にしてくださいました**。また、普段広場では経験できない**バルーンアートに挑戦！！**出来た

バルーンで早く遊びたくて、せがむお子さんのために、お母さん達も必死です。何度も風船が割れてしまいなかなか難しかったのですが、出来た剣や動物や花を**嬉しそうに持って遊びました**。

親子で楽しいひと時を過ごさせてもらえました。

子育てインストラクター 川見 晶子



連載

第158回

おいで、アラスカ

県立こども病院名誉院長 中村 肇



この本は、アンナ・ウォルツ作、野坂悦子訳、フレーベル館2017年刊行の小学校高学年向きのお話です。12歳の少女パーケルと13歳の少年スフェンが主人公の物語で、ふたりをつなぐものとして、一頭のとんかん発作に対応できる**介助犬ゴールデンレトリバー、アラスカ**が登場します。

とんかんという病をもつ少年スフェンは、「いつ、なにが、起こるか分からない」という**不安な毎日**を送っています。また、少女パーケルには、注意欠陥多動障害(ADHD)の3兄弟がいます。

パーケルも、スフェンも、これらの病気のために、同級生からのいじめにあい、満足に学校に行くことができません。子どもたちの**学校生活を送る上での困難さ**が、赤裸々に描写されています。ところが、ある事件を機会に、**友人たちとの溝が埋まります**。

新型コロナ、戦争と不安定な社会に生きる少年・少女たちが、未来に向けて力強く歩み出すには、**彼ら自身による「きっかけ」**が大切です。

